

2018/10/07 先週のメッセージより

「何が人を苦しめているのか」

「人の心は病苦をも忍ぶ。しかし、ひしがれた心にだれが耐えるだろうか。」(箴言 18:14)

病気の苦しみは、外側との関わりによって生まれるものです。災害、仕事上の問題、人間関係など、自分の外側で関わる問題によって苦しみを覚えることがこの世界には数多くありますが、それよりも内側に抱える苦しみのほうが大きなものと聖書は語ります。外側よりも内側の問題のほうが大きいとは、どういうことでしょうか。

例えば、カメラはレンズを付け替えることによって、写り方が変わります。広角レンズ、望遠レンズ、フィルターなど、カメラには実に様々なレンズがあり、実際の被写体もカメラ自身も変わらないのに、レンズを付け替えることによって異なった画像を撮ることができます。

私たちが感じる苦しきも、同じことが言えます。どのようなレンズを使うかによって、心の内側に写るものが変わってくるのです。

「うわべによって人をさばかないで、正しいさばきをしなさい。」(ヨハネ 7:24)

私たちは、行いによって人を判断します。良い行いができる人は良い人で、できない人は悪い人、そして、悪い人には罰を与えなければならない——それが人の持つ基準です。しかし、聖書は、そのような目に見える「うわべ」で人を判断するのは間違っていると教えています。

たとえば、教会に来る方の中には、時折、「先生には愛がない」と言って、教会を去って行く方がおられます。それは、その方が「牧師とはこうあるべきだ」というメガネをかけていたことを意味します。「牧師とはこうあるべきなのに、先生はそうしてくれなかった」だから「先生には愛がない」という結論に至るわけです。

問題は、この「～べき」「～ねばならない」というメガネが、怒りを生じさせるということです。このメガネによって、私たちは人に腹を立て、自分に絶望します。このような「こうあるべきだ」「こうでなければならない」といった人を判断する基準を、聖書は律法と呼んでいます。これが、物事を見るときメガネ、つまりカメラでいうところのレンズの働きをしているのです。律法を持っていると、自分の律法に相手が違犯すると敵意が生じ、怒りがわきます。この時、多くの方は自分のメガネに合わせて、相手を変えようとします。うわべで人の価値を判断するメガネをかけたままでは、人を愛することはできません。

「ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。」(エペソ 2:15)

私たちの怒りを招いているのは律法です。つまり、怒りの原因は相手に問題があるのではなく、自分のかけているメガネが問題だということです。相手を自分に合わせたところで、自分のメガネを変えなければ、何の解決にもなりません。カメラのレンズを変えれば画像が変わるように、自分のメガネを変えれば物の見え方が変わります。私たちが苦しむのは、自分のかけているメガネのせいであり、ひしがれた心は律法から生じるのです。

実は、律法には、神が作った判断基準である「神の律法」と、人が作った判断基準である「罪の律法」があるのですが、「神の律法」と「罪の律法」つまり「神のメガネ」と「人のメガネ」は、全く違います。同じ世界を見ても、私たちが見ている世界と、神様の見ておられる世界とではまったく異なって見えているのです。

この地上に存在する生き物は皆、人間と同じ見え方をしているわけではありません。モノクロにしか認識できない動物、動くものしか認識できない動物、あるいは、可視光線以外のものを認識できる動物などもあります。実体は同じなのに、見ている映像はそれぞれまるで異なっているのです。では、何が一体真実なのか、それは、この世界を造った神のメガネで見ることです。神のメガネで見ると、私たちはこう見えます。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」（イザヤ 43:4）

私たちは神の目には素晴らしいものとして映っています。イエス・キリストは、それを教えるために、十字架に架かってくださいました。神の目から見ると、私たちの体はつながっていて、皆同じように大切に见えるのです。

「大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。」（ローマ 12:5）

私たちは、互いに比べ合っ、て、お互いの価値をはかろうとし、自分をダメな者だと見て落ち込んだりしていますが、神の目には一つの体であり、それぞれ同じように尊い存在として映っています。つまり、私たちが使っているメガネは、全く真実を映し出していないのです。

「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」（ローマ 12:2）

この世の物の見方に合わせるのではなく、人間的な標準のメガネをはずし、自分が見る世界を変えなさいと聖書は教えています。そのために、神は、私たちがメガネをはずせるように、人間的な標準のメガネで理解しようとする、と、つまずきにしかならない福音を用意なさいました。神の福音は、私たちのメガネでは、絶対に受け入れることができません。しかし、メガネをはずして福音を受け入れるなら、私たちは変わることができるのです。

この世の宗教は、私たちのメガネで受け取ることができるものです。私たちのメガネは、

行いに価値があると考えます。ですから、この世の宗教の多くは、良い行いを積み重ねれば救われると教えます。しかし、これは、メガネの延長であって基本は変わっていません。そうすると、私たちが苦しめているものは変わらないこととなります。神は、私たちが苦しみから解放するために、福音をメガネをはずさなければわからないものになさったのです。

イエス・キリストは、罪人たちと交わり、決して裁きませんでした。「行い＝価値」という考え方を否定し、罪には罰を与えるのではなく赦しを与えます。イエスを信じさえすれば良いということです。これが福音です。人間的な標準のメガネではつまずきでしかありません。しかし、神は、人は行いに関係なく、一人一人が素晴らしい存在であることを知ってほしかったのです。わざわざこのような福音を用意したのは、私たちのメガネをはずさせるためなのです。

「ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標準でキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(Ⅱコリント 5:16-17)

メガネをはずすと、まったく別の世界が見えてきます。イエスがキリストであり、私たちの罪を背負って十字架に架かり、罪を赦し、三日目によみがえられたということ信じることができた時、これまでかけていた標準のメガネに穴が開きました。イエス・キリストは見えるようになりましたが、まだ、人間的標準のメガネが完全に外れたわけではありません。次に私たちは、神の言葉を信じきれない自分に出会うこととなります。

私たちは、自分が神に愛されていること、罪が赦されていることを、なかなか信じることができません。もちろん、すべてのクリスチャンはこのことを信じ、受け入れているのですが、100%本当に信じているかと問われればどうでしょうか。聖書は、もしあなたが信じていれば、他の人の罪をさばくことはなく、比べることもないと教えています。人をさばくのは、神が赦したものを赦していないということであり、神に反抗しているのと同じことです。落ち込んだり、自分を責めたりするのは、「あなたは高価で尊い」という御言葉に反抗する行為です。あなたが本当に神を信じるようになったなら、他人の罪を裁くことはなくなり、人を愛せるようになり、人と自分を比べるような愚かなことはなくなります。しかし、実際の自分はどうでしょうか。落ち込み、腹を立てることを繰り返してはいないでしょうか。それは、神のことばにつまずいているということであり、信じ切っていないということです。

そこで神は私たちが完全に苦しみから救い出し助けようとして、本当に信じさせるために、すべての人を罪の下に閉じ込めました。すべての人に、自分は罪人だと悟らせるためです。自分が罪深くみじめな人間だと気づけば気づくほど、神に助けを求めるようになります。福音をくださいと、神にしがみつくなら、無条件で罪が赦されたという平安を得ることができます。こうして、自分の罪を知った上で、「それでも神に愛されている」ということを知ると、人を愛せるようになります。

「しかし聖書は、逆に、すべての人を罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人々に与えられるためです。」(ガラテヤ 3:22)

神は、私たちに福音を受け取らせるため、自分の弱さに気づかせます。すると人は、必死になって神にすぎるものです。

私たちが苦しむのは、メガネをかけているからであり、このメガネを取り除く方法はただ一つ、福音を受け入れることです。そのためには、罪深い自分に気づけばいいだけです。神の助けがなければ生きられないことに気付く、これが十字架に死ぬということです。

人間的標準で見た自分は本当の自分ではありません。その自分を十字架につけ、メガネをはずして、キリストと一つになる自分が見えてくると、感謝があふれます。

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」

(ガラテヤ 2:20)

これは、人間的標準のメガネで見た自分は死に、キリストが私の内に生きていることが見えるようになったということです。「神は無条件で私を愛している」と信仰で受け取ることが、十字架に死ぬということです。私たちを苦しめているメガネを取り外すには、十字架の福音、無条件の愛、罪の赦しがどこまで信じられるかがポイントです。自分のみじめさに気づき、福音にしっかりしがみつくなれば、ますますメガネが取り除かれていきます。